



2025年12月20日にカニャール郡で実施されたバドミントンイベント報告書

I. 背景

現在、私はカニャール市役所社会開発局において、地域開発分野のボランティアとして2年間の活動を行っている。日本で約10年間のバドミントン経験があることから、このスポーツをエクアドルでも普及させたいと考えた。そのため、2025年3月にカニャール市でバドミントンクラスを開始した。開始当初は参加者が限られていましたが、活動を継続することで、徐々に地域内での認知度と関心が高まってきた。

さらに、2025年12月には日本からバドミントン指導者を迎える機会があり、この機会を活かして市民を対象としたスポーツイベントを実施することとなった。これまでカニャールの子どもたちは、正式なバドミントンの試合を観戦する機会がなく、競技としての本来の姿や魅力に触れる経験が限られていた。そのため、グアヤキルのバドミントン選手を招き、デモンストレーション試合を実施することを計画した。これにより、観戦体験を提供し、子どもたちの興味を喚起するとともに、競技レベルの向上および地域におけるバドミントンのさらなる普及を目的とした。

II. 正当性

本活動は、ボランティア活動の一環として「カニャール・バドミントンイベント」という名称で実施され、主な目的はスポーツを通じた地域交流の促進およびカニャール郡におけるバドミントン技術の向上であった。本大会には、地元選手に加え、日本からの若者および指導者が参加し、競技を通じて技術向上と相互交流を促進するとともに、他地域の経験に基づく大会運営や指導方法の導入を図った。さらに、本イベントには他地域からの指導者および選手も参加し、より広範な交流と技術的学習の機会が提供された。

III. 総合目的（一般目標）

地域内外の選手および関係者間の交流を通じて知識と技能を拡大し、大会運営能力およびバドミントン技術の向上を図るとともに、他地域の運営方法や指導経験を導入することにより、カニャール郡におけるバドミントン活動の発展を促進すること。

IV. 実施活動報告

午前の活動報告



午前中には、保護施設の子どもたちを本イベントに招待した。ボランティア活動の一環として、これらの子どもたちに英語の授業を行っていることから、新しいスポーツにも触れる機会を提供することを目的として招待を実施したものである。子どもたちは本スポーツを初めて目にし、大きな関心を示すとともに、活動に楽しみながら参加していた。イベントの開始にあたり、日本から来訪した指導者より歓迎の挨拶が行われ、その後、参加者全員による挨拶が続いた。続いて、全体でウォーミングアップの運動を実施した。



その後、コーチによる指導が行われ、子どもたちは一列に並び、順番にシャトルを打つ練習をした。最初は難しそうにしていたが、打てるようになるにつれて、楽しみながら意欲的に参加している様子が見られた。



午後の活動報告



午後には、毎週土曜日にバドミントン教室に参加している子どもたちに加え、グアヤキルから20名の選手、ナショナルコーチ1名、コーチ2名を招き、カニャールとグアヤキルのバドミントン選手による交流会を実施した。

グアヤキルにはエクアドルバドミントン連盟が所在しており、国内で最もこの競技が盛んな地域である。今回はナショナルコーチの指導を受ける機会を得て、カニャールの選手たちはその指導を体験することができた。まず挨拶を行い、その後、ウォーミングアップを開始した。



その後、基礎練習を行った。基礎練習の後には、エキシビションマッチおよびゲーム形式での実践練習を実施した。



CANAR
CANTÓN INTERCULTURAL

20
AÑOS de
CANTONIZACIÓN

指導者によるエキシビジョンマッチは非常に迫力のあるものであり、このような試合を初めて観戦するカニャールの選手たちは、大変熱心に見入っていた。
ゲーム形式の実践練習では、カニャールとグアヤキルの選手が一緒に対戦を行った。これまで正式な試合に参加したことなかったカニャールの選手たちは、当初やや不安な様子を見せていたが、次第に試合の雰囲気を楽しめるようになっていった。



最後に、選手たちに参加証明書および記念Tシャツを授与し、集合写真を撮影して本活動を締めくくった。





V. 実施方法

1. バドミントン教室の開始（2025年3月～現在）

2025年3月より、カニャールにおいて毎週土曜日にバドミントン教室を開始した。本競技は当時エクアドルではまだ一般的ではなかったが、日本で約10年間の競技経験を有しており、その楽しさを地域住民に広めたいという思いから活動を開始したものである。

2. 教室の初期運営

毎週、子どもから大人まで約15名が参加していた。当初は日本から持参したラケット4本のみで指導を行っていた。ネットや専用コートも整備されていなかったため、参加者が楽しめるような様々な工夫を凝らしながら活動を実施した。

3. 支援体制の構築

その後、日本のバドミントン指導者およびスポーツ関連NGOから支援の申し出があり、教室の発展と強化に向けて協力体制が整えられた。

4. 日本人指導者の来訪準備（12月）

12月に日本人指導者が来訪することとなり、受け入れ準備を開始した。まず、日本国内で渡航費およびバドミントン用品購入費を目的としたクラウドファンディングを実施し、約2か月間で154,700円を調達した。

5. 用具の準備

集まった資金によりラケットおよびネットを購入した。また、日本のラケット専門店やバドミントン関係者からの追加支援も受け、合計48本のラケットを確保した。これらの用具は日本人指導者がエクアドルへ持参し、教室に必要な環境を整備した。

6. 現地での追加支援

さらに、グアヤキルのエクアドルバドミントン連盟より、イベント当日にラケット、シャトル、ネットの提供を受けた。これにより、活動は円滑かつ充実した形で実施することができた。

場所：ティオパンバ総合スポーツ施設

日時：2025年12月20日 午前10時

イベントプログラム		
時間	活動内容	担当者
10:00-10:30	（午前の部）開会挨拶・自己紹介	久保田夏帆・田村優典
10:30-10:45	日本式ウォーミングアップ・ストレッチ	久保田夏帆
10:45-11:15	バドミントン基礎練習	久保田夏帆・田村優典
11:15-12:10	ミニゲーム	久保田夏帆・田村優典
12:10-12:20	エキシビジョンマッチ	久保田夏帆・田村優典
12:20-12:30	挨拶・写真撮影	久保田夏帆・田村優典



13 : 30 -14 : 00	(午後部) 開会挨拶・自己紹介	久保田夏帆・田村優典
14 : 00 -14 : 50	グアヤキルコーチによる指導	Melanie Mandich, Freddy Muñoz, Andy baque
14 : 50 -15 : 10	軽食	久保田夏帆・田村優典
15 : 10 -15 : 30	エキシビジョンマッチ	久保田夏帆・田村優典 Melanie Mandich, Freddy Muñoz
15 : 30 -16 : 30	試合形式	Melanie Mandich, Freddy Muñoz, Andy baque
16 : 30 -17 : 00	閉会式	久保田夏帆・田村優典 Melanie Mandich, Freddy Muñoz

VI. 成果

- ・本イベントは、スポーツを通じた地域交流の促進およびカニヤール郡におけるバドミントン技術の向上に大きく寄与した。
- ・地域の選手や青少年、日本からの指導者、さらに他地域からの参加者との交流を通じて、競技レベルの向上のみならず、相互に学び合う機会が創出された。
- ・他地域の経験に基づく大会運営方法や指導法を取り入れたことにより、運営面および技術面の双方において能力強化が図られた。
- ・これら一連の取り組みにより、カニヤール郡におけるバドミントンの持続的な発展と普及に向けた基盤が構築された。



VII. 提言

1. 継続的な指導体制の構築

本イベントを一過性の活動とせず、定期的な合同練習や交流試合を継続的に実施することが望ましい。そのためには、地域内で指導補助者を育成し、安定した指導体制を構築する必要がある。

2. 用具および環境整備の強化

競技の普及には、十分なラケット、シャトル、ネットおよび専用コートの確保が不可欠である。行政機関やスポーツ団体と連携し、恒常的に使用できる練習環境の整備を推進すべきである。

3. 地域間交流の定期化

グアヤキルなど他地域との交流試合を定期開催することにより、競技力向上とモチベーション維持につながると考えられる。また、地域間ネットワークの強化にも寄与する。

Cañar, Ecuador
2026年1月
久保田夏帆
JICAボランティア
バドミントン指導者
本活動責任者